

**【演題名】**

視覚的フィードバックにより QOL 向上がみられた症例

～短時間通所リハビリテーションを利用しているパーキンソン病患者に対して～

**【はじめに】**今回、「走りたい」という希望のあるパーキンソン病患者に対しグラフを用いた視覚的フィードバックを行い、歩行能力の向上、QOL の向上が図れたので報告する。

**【症例紹介】**70 歳代男性。パーキンソン病、認知症。要介護 2。利用サービスは短時間通所リハビリテーション週 4～5 回。歩行は小刻み歩行がみられるが独歩である。ADL は自立している。軽度の注意力低下がある。性格はまじめである。若い頃野球をしており当時のように走れるようになりたいと希望していた。

**【経過】**柔軟性、歩行能力の向上を目的にストレッチや歩行練習を実施した。本人の希望である走る練習も実施したが長距離は困難だった。歩いて通いたいと希望が聞かれ、長距離歩行練習を実施した。背景には「何かを達成したい」という思いがあったため、満足感を得てもらうよう長距離歩行を実施した際は時間を計測しグラフを作成し提供した。グラフの提供で自分の身体状況が把握でき、走ることに目標が移行していった。長距離歩行練習から走る練習へ変更し、歩行は歩幅が拡大し、走る距離が拡大した。

**【まとめ】**グラフを用いて視覚的フィードバックを行うことで満足感や達成感が得られたと考える。充実した在宅生活の継続には心身機能に限らず、利用者のニーズに沿った支援を行い QOL の向上を目指すことが重要である。

552 文字

※走りたい理由として、症例は若い頃野球を行っており、（実際に行くことは困難ですが）野球ができるように走りたいという希望が聞かれました。

※長距離歩行練習ではゆきよしクリニックからリハセンまでを歩行しており、現在正確な距離は測っていません。時間は 13～15 分程度です。

走る練習では駐車場を 2 周走っており時間は現在計測していません。

どちらかの距離と時間を抄録には記載した方がよろしいでしょうか？